

行政視察等報告書

平成29年7月19日

境港市議会
議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう
代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成29年7月14日（金）～平成29年7月15日（土）
2 視察等先及び内容	平成29年7月14日（金）午後1時～ 会場：岡山コンベンションホール ○「第20回北前船寄港地フォーラム in おかやま」 午後6時～ 会場：ANAクラウンプラザホテル岡山 ○フォーラム参加者によるレセプション （参加費7,000円は自己負担） ○視察目的 竹内南地区国際フェリーターミナルの完工後、「北前船寄港地フォーラム」誘致の参考にするため、市執行部とともに参加。 ※岡山市に宿泊し、翌日に境港市へ帰着
3 視察等議員	米村 一三、岡空 研二、終 康弘
4 総経費	合計（3名） 39,660 円 （一人当たり 13,220 円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所見等	別紙のとおり

内 容：第 20 回北前船寄港地フォーラム in おかやま

報告者：米村 一三

所見等：

視察目的 北前船寄港地フォーラムの開催準備のため

視察先 岡山コンベンションセンター

「北前船寄港地フォーラム in おかやま」

平成29年7月14日（金）午後1時

フォーラムの概要

【テーマ】 古（いにしえ）からの交通の大動脈「瀬戸内海」と国際交流
～ そして未来へ ～

【開会挨拶】 実行委員長 越宗 孝昌（山陽新聞社 取締役会長）

【来賓挨拶】 中華人民共和国 大連市、洛陽市 代表

【来賓紹介】 田村 明比古（官公庁 長官）

佐藤 兼郎（岡山県 副知事）

佐々木 隆之（西日本旅客鉄道㈱ 取締役相談役）

【代表挨拶】 石川 好（北前船寄港地フォーラム 議長）

【調印式】 中華人民共和国 大連市 と 北前船寄港地フォーラム

【基調講演】 北前船寄港地フォーラム 最高顧問 高橋 洋治

【パネルディスカッション・第1部】

瀬戸内海と「おかやま」の魅力を語る ～これからの観光戦略～

・コーディネーター 水島 智（観光庁 次長）

・パネリスト 大森 雅夫（岡山市長）

武久 顕也（瀬戸内市長）

伊東 香織（倉敷市長）

黒田 晋（玉野市長）

【パネルディスカッション・第2部】

瀬戸内海観光とインバウンドの未来

・コーディネーター 水島 智（観光庁 次長）

・パネリスト 森本 卓壽（西日本旅客鉄道㈱ 執行役員 岡山支社長）

岡田 晃（㈱ANA総合研究 代表取締役社長）

二宮 秀生（日本航空㈱ 常務執行役員）

横田 有次（岡山県 産業労働部長）

【次期 開催地 紹介】 青森県野辺地町

【総括・閉会挨拶】 久保 成人（公益社団法人 日本観光振興協会 会長）

同日 午後6時

【レセプション開催】

会場 岡山市 ANAクラウンプラザホテル岡山

参加人員 約400名

挨拶の後、意見交換会に入る。

アトラクションとして、倉敷合同民謡会の皆さんにより、下津井節・舟歌調下津井節が披露される。

《 所 感 》

岡山市で、このフォーラムが開催されたのは、北前船寄港地として牛窓や下津井、玉島、日比などの寄港地を有していたからである。北前船は江戸時代中期から明治時代中期にかけて、北海道と大阪を日本海と瀬戸内海を経由して結んでいた。この廻船により様々な物資が各地にもたらされ、同時に文化・風俗も交わっていった。下津井港に運ばれたニシン粕は倉敷地域の綿花栽培を活発にし、その伝統により今も繊維生産の有数の産地となっている。

この北前船でもたらされた交流の意味合いを現代に生かすために、2006年に山形県酒田市で北前船コリドール会議がこのサミットの発端であり、今年で第20回を迎える。この記念すべき年に、海外の都市である大連市と連携によりさらに飛躍しようとしている。本年11月には鳥取市で、翌30年5月には中華人民共和国・大連市での開催が決定している。

境港市も誘致を計画するなら、早く準備室のような受け皿をつくり、誘致活動を強力に展開しなければ、競合する地域に後れを取りそうな様相である。

レセプションについて述べれば、挨拶が10数人によって繰り広げられ、挨拶だけで開会から30分以上経過するなど、おもてなしとは程遠いと感じた。少しゆっくり意見交換できる間合いを計画すべきである。